



国際理解教育元年

管内国際理解教育研究会長 高柳 修

立春を迎えましたが、まだまだ厳しい寒さが続いています。会員の皆様におかれましては、益々各地でご活躍のことと推察しているところです。

さて、いよいよ平成21年度のまとめの時期がまいりました。本研究会も今月末には総会を控え、各部の反省と改善点などを先日の役員会で検討したところです。

また、先日、今年度立ち上げました『FLAP(外国語活動プロジェクトチーム)』の今年度の活動について送られてきました。内容を見ますと、年5回の活動の中で目的や活動方向性、授業案づくり、研究授業と質量ともに理論と実践を組み合わせた活動になっていました。今後、更に研究を積み重ねて、外国語活動について困難を抱えている小学校に何らかの発信ができれば、『FLAP』の活動がより意味あるものになっていくものと期待しています。

さらに、この研究活動を基盤として昨年9月には、網走市立南小学校の高田先生に管内の公開研究会を実施していただきました。小学校における外国語活動は今年度から先行実施がされているとはいえ、まだまだ公開授業は少なく、貴重な授業研修の場となりました。特に、買い物という日常の題材を選択することによって、児童から意欲や興味・関心をひきだし、より意欲的に英語を使う楽しさを味わわせた授業構成は秀逸でした。また、参観者から異口同音に担任がMTとして授業を作り上げるメリットとALTとの打ち合わせの重要性についての指摘があったことも成果の一つでした。今後、評価、中学校との連携、シラバス、複式校の授業など課題が山積していますが、一步一步課題解決のため研修を積み重ねていくことが大切なことと思います。

いよいよ、23年度から外国語活動が小学校の教育課程に入ってきます。全国の小学校で英語教育の前段階が始まると言っても過言ではないと考えています。ここで考えなければならないのは、外国語活動とした理由です。もちろん様々な諸説や要因があるのを押さえた上で、私見を述べれば、外国語活動の目標に答えはあると思います。「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、(中略)コミュニケーション能力の素地を養う。」つまり、乱暴な言い方をすれば、異文化理解を深め共生の心を育んだり、体験的に理解を深め自己の確立に寄与したり、外国の人と進んでコミュニケーションをとろうとする態度を養ったりする我々の目指す国際理解教育そのものだと言えます。

もちろん外国語活動をやっていれば国際理解教育かと言えば、そんなことはありません。外国語活動の中にどのくらい意識して国際理解教育のエキスを入れていくかが問われているものと思います。

いずれにしろ、まだ、本格的に始まろうとしている段階ですので、私たちは平成23年度が国際理解教育元年という気持ちで準備に邁進したいと思います。会員の皆様の益々のご健勝、ご活躍を期待しています。

今年度の研修を振り返って...

今年度は網走南小学校を会場に、管内の研究大会が開かれました。授業者の高田佳奈先生はじめワークショップを担当していただきました諸先生方、お疲れ様でした。紙面では紹介できませんでしたが、詳しい内容はホームページに掲載しています。そちらもぜひご覧ください。アドレスは・・・

<http://abakoku.jp/>

今年度の研修を振り返って研修部より成果と課題が出されました。

今年度の研究全般を通して（成果と課題）

- ・小学校外国語活動に関する研究が中心となった。その中で、意識して国際理解教育に結びつく授業づくりを進められた。
- ・「小学校外国語活動プロジェクトチーム」(FLA-P)を立ち上げ、網走管内の関心ある教師間の交流を図ることができた。公開研究会ではワークショップを担当していただいた。
- ・授業者の選定は早目に行いたい、小学校外国語活動に限定すれば、高学年担任という条件も重なり、前年度中に行うのは難しい。複数の候補者を考えておくなどの準備が必要である。
- ・複式学級・特別支援学級での活動や、外部人材の活用についても、検討していく必要がある。
- ・FLA-Pは研究部としても評価していくが、独自の組織として活動する。
- ・外国語活動以外の部分では、十分な取り組みをする余裕がなかった。今後、開発教育的な部門と二部門のチーム作り研究をしていくか、当面外国語活動を重点にしていくか、方向性をはっきりとさせて研究を進めていく必要がある。現実的には後者の方向性が妥当と考えるが、最終的には新年度の研究部に任せる。
- ・学習会として講師を招き、お話を聞いた。毎年できるとは限らないが、チャンスがあれば、いろいろな方々のお話を聞く機会を設けたい。



FLA-P 小学校外国語活動

プロジェクトチーム 成果と課題

FLA-Pでは、去る1月16日に第4回のミーティングを行い、成果と課題を中心に話し合われました。小・中の連携や情報発信、へき地校カリキュラム、外部人材の活用などの課題、担任主導の外国語活動の意義などが確認されました。

成果

- ・各学校の実態を交流することにより、今各校でかかえている悩みや課題などを明らかにすることができ、外国語活動の分野で本研究会が探っていくべき方向性が具体的に見えてきた。
- ・授業作りを授業者を中心にしつつ複数で考えていくことにより、あらゆる児童、あらゆる規模の学

校を想定しながらシュミレートすることができた。

- ・外国語活動としての本研究会としての目標を改めて考えることにより、はっきりと目指す児童像が見えた。
- ・各校で研究したことをレポートを発表し合い、そのことについて参加者で練り合うことにより、外国語活動の授業における研修を行うことができた。

課題

- ・各校の課題を交流し、それについて研究しながら課題を解決していく道筋はできたが、少ない回数のミーティングではなかなか深まりが得にくかった。
- ミーティングの回数を増やすことは難しいので、それぞれの課題を年度当初に明らかにし、そのことに向かってそれぞれ研究していくという見通しを持つような研究方式にしていく必要がある。
- ・授業作りでは、研究部と本プロジェクトとの連携がうまくとれなかった。
- 外国語活動の授業作りをしていくのであれば、研究部とともに授業を作っていくことも可能である。効率的に行っていく必要がある。
- ・今年度は外国語活動の目標についての理論研究が行われたが、評価や活動内容、支援方法など、本研究会として確認していかなければならないことがある。
- 次年度は年度当初から年間の見通しをしっかりと持ち、研究を進めていく必要がある。

編集後記:

会員の皆様、お元気ですか。会報紙2号の発行が遅れまして申し訳ありません。今回は年度の総括、研究の成果と課題を中心にお送りしました。忙しい中に研究大会に参加された皆さん、ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。会員の皆様に会報誌をなかなか細かくお届けすることができませんが、ホームページは随時更新しております。月イチ程度でも、ちらっとご覧いただければ嬉しいです。今年度は外国語活動プロジェクトチームが立ち上がり、積極的に取り組みを進めています。興味のある方はぜひご参加ください。次年度もよりよい活動になるように頑張りましょう。 (^-^)/
<http://abakoku.jp/>

網走管内国際理解研究協議会 会報「地球市民」2号 文責： 情報部部长 相内小 長崎 祐紀

(おねがい) 会費の納入はお済みでしょうか?今年度の会費をお忘れの方が多いようです。年会費は3,000円です。まだの方、お忘れの方は下記の口座までお願いします。ご確認、お問い合わせは会計、豊丘小学校 小野寺哲浩教頭先生までよろしくお願いします。

■ 口座振込 郵便局 19980-3387981 小野寺哲浩 宛